

◆地域活動

平成15年度魚類養殖生産者会議

牧野清人

沖縄県水産試験場普及センターが主催する魚類養殖生産者会議が、平成16年2月27日に沖縄市産業交流センターで開催された。

魚類養殖場海域の環境調査結果及び平成14年度魚類養殖実態調査結果について水産試験場普及センター本部駐在の牧野普及員から報告があり、続いて水産医薬品と魚病について水産試験場の杉山主任研究員から情報提供された。

漁場環境調査については、羽地内海周辺の環境の推移について図を用いて説明された後、運天原、塩屋、本部、糸満における魚類養殖場周辺の環境調査結果が図表で説明された。その中で、漁場によって程度の差はあるが、海水の溶存酸素量の低下や底質の化学的酸素消費量（COD）、及び全硫化物量（TS）の増加から、徐々に漁場環境が悪化してきていることが示唆された。

水産医薬品と魚病については、平成15年度の薬事法改正の要点について説明があり、養殖現場での今後の方向性について問題提起された。また、金武町のウナギ養殖場を例に挙げ、安心できる養殖魚を造るための対策について説明がなされた。さらに、平成15年の2～5月にかけて発生したオヨギイソギンチャクによる刺傷についても、対策試験結果の報告がなされた。薬事法改正に伴い、魚類養殖で使用される医薬品においてさまざまな規制が施されたこともあって、医薬品関連の質問が多いようであった。全体討議では、魚類養殖及び販売等の現状について意見交換がなされた。スギの販売不振や、マダイ等の単価が低迷していること等についてさまざまな意見が述べられた他、養殖魚に対する共済事業についての質疑応答もあった。

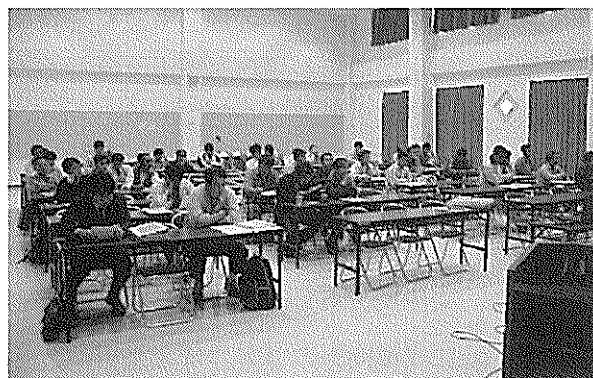
これからの生産現場では生産技術のみならず、

安心できる魚を安定供給するための取り組みや、流通販売経路の開拓が必要となることを痛感させられた会議であった。

中部での開催であったためか、県北部の生産者の数が少ない状態であったが、次年度は生産者による事例報告に重点を置き、これまで以上に有意義な会議にしたい。



水産医薬品と魚病についての説明



生産者等による意見交換の様子



座長を務められた上間氏